

報恩講ガイド



報恩講とは

浄土真宗門徒にとっては一番大切な行事で、親鸞さまのご命日法要のことです。七五〇年以上にわたり、先祖代々大切に伝えられてまいりました。クリスマスをしたようにクリスマスチャンがないように、報恩講は真宗門徒にとっては、特別な意味を持つご伝統のご法縁です。

初耳の方も

核家族化のせいでしょうか、ご先祖・ご両親はあんなに大事にされていたのに、全くご存じないという次世代が急増しています。

七五〇年も続いているのはそれなりの理由があります。初耳の方も、「関心ない」「忙しくてそれどころではない」とおっしゃらず、どうか「温故知新」故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知るの精神で、私たちの先輩方が大事にされた限らないのちの世界の扉を開いてください。

〈お問い合わせ・ご連絡先〉

長ノ木本坊地区も
三津田支坊地区もすべて蔵本通支坊まで

中央7丁目7-13 ☎0823 (21) 2798

三つある報恩講

報恩講は、

① 通り報恩講

② お取越し報恩講

③ 御正當(御正忌) 報恩講

の三通りあります。

① 通り報恩講

各ご家庭でお迎えする報恩講です。ご門徒は必須です。西教寺では、毎年十月一日よりはじまります。お寺の近くはさしあたり日時を指定させていただき(変更可)、一軒三〇分の目安でお参りいたします。お寺から遠くは、あらかじめ日時を相談の上お参りさせていただきます。

その日は都合が悪い

お寺からご案内の日時に、仕事やご病気などで都合がつかない場合は別の日時にお参りさせていただいています。

大事な報恩講です。早朝でも夜でもお参りいたします。遠慮なくにご一報ください。

《連絡先》

すべて蔵本通支坊へ
0823(21)2798

ご理解とご協力を

お葬式や枕経(臨終勤行)などで、どうしても予定を変更せねばならない場合があります。また、深刻な相談の場合は話を途中で切れないこともあります。時間厳守を心がけていますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



② お取越し報恩講

お寺でつとまる報恩講法要です。親鸞聖人のご命日(二月十六日)を取り越して(くりあげて)つとめるのでそう

いいいます。お忙しいご門徒の皆さんも、どうぞ年に一度、報恩講にはお寺にお参りください(詳細は最後のページ)。

③ 御正當(御正忌) 報恩講

そして最後に、一月十六日の親鸞さまのご命日の法要が、京都の西本願寺で二月九日(十六日の八日間つとまります(御正忌報恩講)。それはそれは素晴らしいご法縁です。美しく荘厳された御堂は満堂となり、希望者は国宝の鴻(こう)の間でお斎(とき・精進料理)もいただけます。十五日は通夜布教といってひと晩中ご法話があります。皆さんぜひご本山へお参りいたしましょう。

しかし、昔はそう簡単に京都へ行けませんでしたので、ご法義な(信心深い)安芸地方では、当たり日に現場のお寺でも法要(御正當報恩講)をつとめます。本山にお参り

できない方は西教寺でいっしょにご当たり日のご勝縁にあわせていただきますよう。

ちなみに、この期間、門徒は広島島の郷土料理「煮ごめ」を食べてお精進で過ごします。漁・猟も休んだため市場・鮮魚店・精肉店が休みになりました(おたんやの市止まり)。

報恩講の意義

仏教は先祖供養の教え、お寺は葬式と法事をするところとお考えの方も少なくないかもしれません。しかし、お釈迦さまの説かれた仏法、また親鸞さまの教えは、本来的にこの私が、人生の悲しみや苦しみを超え、実りある人生を歩むことを教えるものです。真宗では、そのようなまことの人生にめぐまれて生きること、を「信心を決定する」といいます。蓮如さん(本願寺八代門主)は、

この砌(みせん) (報恩講の法縁) において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞(きえん)してまことの信心を決定(けつぎん)すべくんば、真実実、聖人(親鸞) 報謝の懇志にあひかなふべきものなり。

〔御俗姓御文章〕『浄土真宗聖典註釈版』二二三頁

と、私たち一人一人が信心を決定することこそが、親鸞さまのご恩に報いること「報恩」なのだとおっしゃっています。報恩講は、私(たちが)仏さまと出遇い、まことの人生に目覚めてゆく縁です。最後に、親鸞さまがおっしゃる報恩は、「お念仏を心に入れて、世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」と生きること、信心とは、自己完結することではなく、世のため人のために尽くすことだとおっしゃいます。どうぞ、仏さまから届けられたいのちの意味を聞き、皆にも伝えてゆきましょう。

のお仏壇

通り報恩講は、何はともあれお仏壇のご準備から。報恩講は、昔から、「おみがき」といってお仏壇を大掃除してお迎えするのが慣わしです。

おみがき（お掃除）

めっきしていないしんちゅう製の輪燈・おりん・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅう磨きなどで磨きます。家族みんなでみがきしましょう。



おかざり

「お花」まじごころをお供えするので

すから、造花はご法度です。



ローソク

普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお光りをともしましょう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱ロウ（赤いローソク）で。マッチと灰皿をお忘れなく。



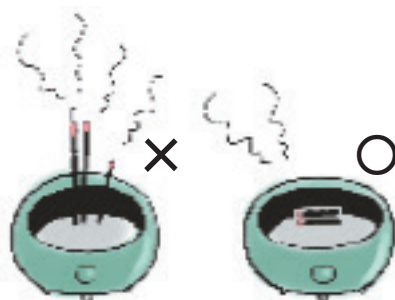
お仏飯

これがなければ始まりません。両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）にもお忘れなく。



お香

できるだけ良い香りのものにしましょう。香炉は灰をならしておきましょう。マッチの燃えカスは香炉ではなく灰皿に入れるようにしましょう。



線香は立てずにねかせます

お供え物

報恩講などの法要仏事の際は、お仏飯の他、お餅やお菓子等を適宜お供えします。お供えする順番は上から、または内側から①「餅」②「菓子」③「果物」の順です。また、お供えは、供筒（華足ともいう）や高杯に盛りますが、この辺で多い三方向が金濃（金色）、残りの三方向が黒の供筒は、金が正

裏側（黒塗りの部分）が出ないようにします。



面に来るよう（黒が見えないように）します。

ちなみに、仏さまとご先祖とを混同しておられる方も少なくないようです。仏さまにはお水・お茶・コーヒー・お酒・たばこ等はお供えしません。



×

死別をはじめ、さまざまに苦悩する私をお救いくださる仏さまのみ教えに耳を傾け、導かれ、歩いてゆく人生はすばらしいものです。

御文章（いぶんしよう）

「出し忘れ」をしたり、向きが「上逆」になっているのが御文章。

こちら（上側）が仏さま側



お持ちでない方は、お寺にご相談下さい。ちなみに、法事の「お仏前」をお供えする場合や、お花仏具なども仏さまの方には向けずに私たちの方向にを向けるのが作法です。

お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹茶（粉のお香）を忘れずに。



お念珠・お経本・門徒式章

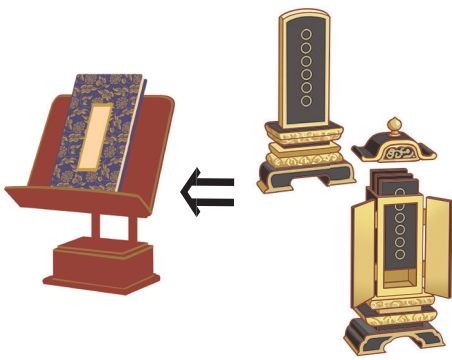
お念珠、お経の本をお忘れなく。門徒式章をお持ちの方

は、着用ください。この三つが仏さまにお参りする時の三點セットです。これらは大切に扱い、直接地面に置かないようにしましょう。

おつとめ

お経はいつしよについてあげます。老眼鏡を忘れずに。時間を一軒三十分長くしてから、お正信偈も少しはゆつくりになつたと思いますので、できるだけ多くの方を誘っていつしよにおつとめしましょう。

お位牌は過去帳に



浄土真宗はお位牌は用いません。法名帳（過去帳）に書き換えましょう。お寺の者にご相談下さい。

真宗門徒の生き方

「浄土真宗の教章（旧）」には、真宗門徒の生き方として「深

く因果の道理をわきまえて、現世祈祷やまじないをおこなわず占いなどの迷信にたよらない」とあります。私たちの先祖はどうだったかという

と、江戸時代、広島藩で編纂された『芸藩通史』には、封内（＝領地内）親鸞宗に係わるもの多し。その深く信ずる者は、家に神棚を置かず、病んで祈祷せず（『芸藩通史』）

と、神さまや祈祷にたよらずに、教えの通り力強く生きておられた様子が記されています。

お参り先で、たまにお守り・破魔矢・お札・神棚・他宗の本尊など見かけます。このほか、

日の善し悪しや方角、墓相・家相その他さまざまな縁起かつぎや、運氣が上がるといわれる壺や印鑑など、気になっている方もいらっしゃるようです。私は、このことを「けしからん」とか「つまらん」とかいいたいのではありません。悩みや不安は誰にだってあります。

宗教は大きく分けて「力の宗教」と、「道（道理）の宗教」に分けることができると思います。前者は人間を超えた力、パワーに頼る宗教です。後者は、私たちはどう生きてゆくべきか、歩むべき道、真実の道、道理を教える宗教です。何が本当のことか、実りある人生には何が大事なことなのか、どうぞお寺でいつしよにお聴聞いたしましょう。



いらなくなります

人身受けがたし
仏法聞きがたし

お取越し報恩講法座

〔朝席〕8時30分～10時30分 〔昼席〕13時～15時 〔夜席〕19時30分～21時

現在（9/5）広島県は、医療ひっ迫注意報発令中です。今しばらくはマスク着用でお参りください。参加費（ご法礼）は、お名前（フルネーム）・住所・電話番号を書いた封筒にお気持ち（喜捨）を入れて帳場にお願ひします。YouTubeでも配信しますのでご自宅でも視聴できます。どうぞ、帰郷できないご遠方のご家族ご友人にも教えてあげてください。開始1時間前に警報が出ていたら中止です。



呉市西教寺 YouTube

三津田支坊 11月 9日（日）朝席・昼席 / 10日（月）朝席

三条 4-13-7
TEL0823-21-5895

講師 築田哲雄 先生（元広島仏教学院講師・南区法光寺住職）
※10日（月）参詣者にお斎（とき）。

蔵本通支坊 11月26日（水）夜席 / 27日（木）朝席・昼席 / 28日（金）朝席

中央 7-7-13
TEL0823-21-2798

講師 武田達成 先生（元中央仏教学院講師・同和教育振興会常務理事・大阪府吹田市千里寺住職）

※28日（金）バザーあり・お斎（とき）は昨年は持ち帰りのみ。今年は未定。

長ノ木本坊 12月14日（日）夜席 / 15日（月）朝席・昼席 / 16日（火）朝席

長ノ木町 16-10
TEL0823-21-3714

講師 長田浩昭 先生（兵庫県丹波篠山市真宗大谷派法傳寺住職）

※16日（火）バザーあり・お斎（とき）は昨年は持ち帰りのみ。今年は未定。